

【事業報告】

平成 25 年度・26 年度 事業報告

〔総括〕

平成 25・26 年度の学友会事業は、これまで通り「会員相互の親睦を図る」、「母校の発展を後援する」を念頭に常置委員会を中心に活動を行い、ほぼ計画どおりに達成できた。

以下に事業結果の総括を報告する。

1. 西谷源展先生の退任記念講演会および祝賀会の開催

平成 26 年 7 月 19 日に、京都ホテルオークラにおいて平成 26 年 3 月末で退任された母校の西谷源展先生の「退任記念講演会および祝賀会」を学友会主催で開催した。この会は、母校の卒業生と教職員に限定し、北は北海道、南は沖縄までの 275 名が出席して行われた。記念講演では「放射線技師教育 44 年間に回想して」と題して西谷先生の講演が行われた。

2. 学友会設立 85 周年記念バッジの作成

2013 年学友会総会(福岡・久山温泉)にて承認された事業計画にある、学友会設立 85 周年記念バッジが完成し、学友だより 212 号(2014 年 7 月 10 日発行号)に同封し配布した。

3. 学友会名簿 2014 年版の発行

広告収入も厳しい情勢の中、2 年ごとに発行している会員名簿を 2014 年 11 月に発行した。

4. 母校への後援活動について

入学式・卒業式に臨席し祝辞を述べ、その中で学友会の活動を紹介した。

加えて、学園祭と同時に開催されたオープンキャンパスでは学友会による相談コーナーを設けるなど積極的に学園行事に協力した。

5. 支部との連携活動について

会員相互の親睦・親交を積極的にはかって頂くため、定期的な支部総会の開催を要請すると共に、出席要請のあった支部には会長及び本部役員が出席するよう努めた。

以下、常置委員会が行う事業以外について総括する。

〔委員会報告〕

(1) 庶務委員会

通常の業務として理事会(年 4 回)および各委員会、打合せ会議等の開催案内および会議運営を行った。学友だより(年 4 刊)の発送、ホームページの定期的な更新および内容の充実を図った。会員情報管理、支部の役員名簿、卒業生就職先名簿など各種文書の取扱業務を行った。また、支部総会および同窓会開催時には、会員宛名シールの提供および案内状発送等の支援を行った。

(2) 編集委員会

「学友だより」を下記の通り年 4 回、計 8 号発行し会員との情報の連携に努めた。

学友だよりの内容については、予定していた必要事項は全て掲載し、加えて随時送られてくる事項についても、時宜を逃さず掲載できた。計 8 号の総頁数が 94 頁となり、前年度総頁数 84 を上回った。これは学友会事業や支部活動の活発化を示しているものと思う。

平成 25 年 4 月発行の 207 号より、A4判のままでの送付を行った。

現在、通巻 215 号(平成 27 年 4 月 10 日発行予定)の発行準備を行っている。

通巻 207 号	2011 年(H25 - No1)	平成 25 年 4 月 10 日発行	8 頁
通巻 208 号	2011 年(H25 - No2)	平成 25 年 7 月 10 日発行	16 頁
通巻 209 号	2011 年(H25 - No3)	平成 25 年 10 月 10 日発行	10 頁
通巻 210 号	2012 年(H25 - No4)	平成 26 年 1 月 10 日発行	12 頁
通巻 211 号	2012 年(H26 - No1)	平成 26 年 4 月 10 日発行	10 頁
通巻 212 号	2012 年(H26 - No2)	平成 26 年 7 月 10 日発行	12 頁
通巻 213 号	2012 年(H26 - No3)	平成 26 年 9 月 25 日発行	10 頁
通巻 214 号	2013 年(H26 - No4)	平成 27 年 1 月 10 日発行	16 頁

(3) 企画委員会

① 就職懇談会の開催

平成 25 年 7 月 13 日(土)、平成 26 年 7 月 12 日(土)の両日、午後から大学講義室において、4 年生を対象に就職懇談会を実施した。就職に対する意識を高める必要性から大学側からの要請により、平成 24 年度から夏休み前の開催となった。

両日ともに、短大卒業生を中心に 4 名の学友会員に講師をお願いした。企業に席を置く卒業生は、医療現場だけには留まらない会社組織での業務や昇給、昇進のシステムを紹介して頂いた。また、同じ医療職でありながらも大学病院や市民病院、検診センターなど様々な規模、職域の卒業生にその業務等を紹介してもらった。医療職については大まかな理解が得られたようであったが、企業の先輩に対して質問が多く寄せられた。専門学校や短大などは診療放射線技師の養成を行うための指向が強いが、大学での教育ではそれ以外の知識も習得されていることがうかがえた。

卒業生が後輩に残したアンケート調査である『贈る言葉』を基にした Q & A 形式のプレゼンテーションを行った。つい最近まで同じ所で学んでいた先輩からの就職に対する、生の忠告や意見であるため、現実性が高く今後の就職活動の参考となるとの感想であった。

学友会会長など学友会の先輩方もオブザーバーとして多数参加いただき、様々な立場で学生に対して助言をおこなった。

両日ともに懇談会終了後にあづまやで在學生との懇親の場を持った。

大学評価・学位授与機構からも良好な評価を受けていることの情報もあり、就職活動支援に関しては大学と学友会との連携を緊密にし、今後ともサポート体制を強化していく必要がある。

② 学園祭における学友会相談コーナー等の開設

平成 25 年 10 月 26 日(土)、平成 26 年 10 月 25 日(土)に開催された学園祭に例年通り「学友会何でも相談コーナー」を開き、在學生の相談に応じると同時に、在學生と卒業生との親睦を図った。

平成 25 年度からは、在學生に手伝ってもらい学友会が主催した模擬店を相談コーナー内に設けた。串カツやヤマメなどが食べられることから、従来に比べて和気藹々とした雰囲気が増して感じられ、就職や学業に対する相談が行い易くなったとの意見も頂いた。

両日とも、大学のオープンキャンパスも開催され、見学に訪れた入学希望者(高校生、保護者)の相談を受け付け、本学の特徴である『学友会』組織について資料を作成し展示した。

最近の傾向としてオープンキャンパスに訪れる保護者や学生は、診療放射線技師の仕事について既に情報を得ている場合が多く、それらに関する相談は減少傾向にある。また、平成 25 年度から始めた(在學生)相談コーナーの模擬店にも保護者等が来訪するようになったことから、オープンキャンパス説明会場である学友会ホール前での相談は縮小し、「学友会何でも相談コーナー」でも一括して相談を受け付けるようにした。

(4) 名簿委員会

平成 24・25 年度の卒業生を正会員として加えたほか、勤務先・自宅等の移動申請に伴って、随時 変更を加えた。また、名簿発行にあたって現況確認ハガキを全正会員に送付し、情報の正確性の向上に務めた。

平成 26 年度に 2014 年版 会員名簿を発行した(550 冊)。広告収入が 1,090,000 円(23 社)、頒布収入が 688,000 円(344 冊)であった。また、発行に掛かる費用が合計 1,641,170 円であったため、余剰金 136,830 円を一般会計に返金した。

(5) 表彰委員会

① 表彰対象者の選考

「表彰規定」および「名誉会員並びに表彰候補推薦内規」に則り、各支部からの推薦者を含めた表彰対象者の選考を行った。

② 名誉会員の選考

『名誉会員』会長・理事を歴任した埜藤真純氏(奈良支部、43 回生)を名誉会員の推戴候補者として理事会に推薦した。

③ 2015 年度学友会総会表彰者等

『学友会功労賞』支部から推薦があった比嘉恒夫氏(沖縄支部、29 回生)および矢野雅昭氏(四国支部、45 回生)に学友会功労賞を贈呈することを決定し、理事会に推薦した。また、感謝状贈呈者として漢那憲聖氏(42 回生)、山内成身氏(47 回生)、山口和也氏(52 回生)、恒見有紀氏(短 13 回生)の 4 氏を理事会に推薦

した。

尚、『学友会栄誉賞』、『学友会奨励賞』については、該当者がなかった。

(6) 財務委員会

① 一般会計

収入について、預金利息を除き良好な進捗(全体で105%)であり、総額10,920,602円となった。支出では、学友だより214号発行分が未払いのため、次年度に支払うこととした。また、宅配業者を積極的に利用することにより、通信費を抑えることができた。その他、概ね良好な進捗であり、総額8,903,097円であった。次年度の繰越金は2,017,505円となった。

② 終身会費

会費収入は新入生181名(2年間)であり、5,430,000円であった。また、積立金(国債等)による利息は846,201円であった。支出では、一般会計への補助金を収入と同額としたため、今期の当初より利息分だけ積立額が増加し、総額40,304,405円となった。

③ 21世紀創生基金

今期3件の寄附があり総額400,000円であった。支出では、学友会85周年記念バッジの製作・配布に1,864,030円を費やした。その結果、繰越金は4,873,168円となった。

以上

* 通巻216号 2015年7月10日発行(H27-No.2)より